

とができる。

六 琴電の復興

町民にとって琴電は、高松・琴平方面への通学・通勤等の足として欠くことのできないものである。戦後輸送難緩和のため、昭和二十三年（一九四八）十月に国鉄から譲り受けた「ワフ二〇〇〇」型有蓋貨物車を改造して営業運転を開始したが、当時、乗客を荷物扱いするとの批判もあった。これは当時の困窮した世情の一端を表したものであったといえる。

昭和二十三年十二月、瓦町―築港間の延長工事が完了し、昭

和二十四年五月か

らこの間の複線運

転が始まった。昭

和三十三年高松―

琴平間を四〇分で

結ぶ急行電車の運

行が開始された。

途中停車駅は、瓦

町・栗林だけで

あったので、陶信

号所が新設され、

普通電車との行き

違いが行われるようになった。さらに、同年十二月からラッシュ時の混雑解消のため、築港―岡本間の一部が滝宮まで延長運転されるようになったので、町内からの通勤・通学者は大変便利になった。

平成三年（一九九二）六月、琴平線の所要時間を一時間以内にスピードアップするために、それまで滝宮駅で上下の離合が行われていたのが陶駅に変更になり、同駅の複線化とプラットホーム等の新設整備が行われた。このため朝夕の通勤・通学のラッシュ時は陶駅付近の交通は混雑するようになった。



写真7-100 複線工事が完了した陶駅